

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
神経系理学療法学		必修	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
高村 浩司	D307	takamura-pt	火曜日 12:30~15:00		
授業の目的・概要	本授業では、神経系の障害によって生じる障害像とそれらの疾患に対する基本的な理学療法を理解するために、中枢神経が障害された際の病態生理や治療の方法について学び、神経系理学療法の理論的背景を理解することを目的とする。講義は、神経疾患に対する理学療法を行うために必要な検査測定の方法と結果の解釈、治療方法についてそれぞれを関連付けて行うものとする。				
学習上の助言	予習・復習で生じた疑問は、授業中・オフィスアワー等で早めに解決すること。				
教科書	標準理学療法学専門分野 神経理学療法学 第2版/編集：吉尾雅春、森岡周/医学書院				
参考書	指定参考書なし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	脳の機能区分とその働きについて理解し、説明できる。			PT (1)、(5)	
②	脳卒中の発症と機能回復のメカニズムならびにその症状について理解し、説明できる。			PT (1)、(5)	
③	脳卒中以外の中枢神経疾患の病態について理解し、説明できる。			PT (1)、(5)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	中枢神経系の構造と機能について学ぶ。	講義	脳の機能局在について教科書を確認する。	2	
2	大脳皮質の機能局在について学ぶ。	講義	脳の区分について教科書で確認しノートにまとめる。	2	
3	大脳皮質の機能 (前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉) について学ぶ。	講義	脳の機能局在についてまとめる。	2	
4	中枢神経系の伝導路 (下行伝導路・上行伝導路) と脳卒中片麻痺者の運動麻痺評価スケールについて学ぶ。	講義	脳卒中が生じる機序について確認しノートにまとめる。	2	
5	脳卒中後の運動障害の特徴について学ぶ。	講義	脳卒中後に生じる運動障害について確認する。	2	
6	脳卒中にて生じる高次脳機能障害について学ぶ。	講義	脳卒中後に生じる高次脳機能障害について確認する。	2	
7	脳卒中後片麻痺者に対する評価① (運動・感覚障害・バランス機能の検査方法とその解釈) について学ぶ。	講義・実技・GW	片麻痺者に対する評価の練習を行ってみる。	2	
8	脳卒中後片麻痺者に対する評価② (腱反射・筋緊張の検査方法とその解釈) について学ぶ。	講義・実技・GW	教科書を読む・中間試験に向けて①~⑦の内容を復習する。	2	
9	脳卒中後片麻痺者に対する評価③ (姿勢および運動分析の実際と解釈) について学ぶ。	講義・実技・GW	片麻痺者に対する評価の練習を行ってみる。	2	
10	脳卒中後片麻痺者に対する評価④ (ADL・歩行の実際と解釈) について学ぶ。	講義・実技・GW	片麻痺者に対する評価の練習を行ってみる。	2	
11	脳卒中の意識障害と失語症を中心とした高次機能障害について学ぶ。	講義	該当箇所につき教科書を読む。	2	
12	パーキンソン病の理学療法に必要な知識について学ぶ。	講義	パーキンソン病について教科書の該当箇所を読みまとめる。	2	
13	脊髄小脳変性症、多発性硬化症の理学療法に必要な知識について学ぶ。	講義	脊髄小脳変性症、多発性硬化症について教科書の該当箇所を読みまとめる。	2	
14	筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群の理学療法に必要な知識について学ぶ。	講義	筋萎縮性側索硬化症、ギランバレー症候群について教科書の該当箇所を読みまとめる。	2	
15	中枢神経疾患において生じる摂食・嚥下機能障害ならびに排尿障害に対する知識について学ぶ。	講義	該当箇所につき教科書を読む。	2	
試	定期試験				

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

		達成度評価					
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	30	0	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に定期試験を実施して評価する。試験では、教科書ならびに授業中のスライド、配布するプリントに基づく応用問題を出題し、理解度を問う。				試験終了後に講評及び内容の解説を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>担当教員：◎高村 浩司</p> <p>教員の実務経験：理学療法士として 29 年間の実務経験有（神経理学療法専門） 実践的授業の内容：実技や GW では学生自らの思考を問いまとめる機会を設ける。</p> <p>*実技を実施する際は、動きやすい格好で参加すること。 *全て対面授業で実施する予定である。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。 問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 今後のコロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性がある。</p>							